

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 日明 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

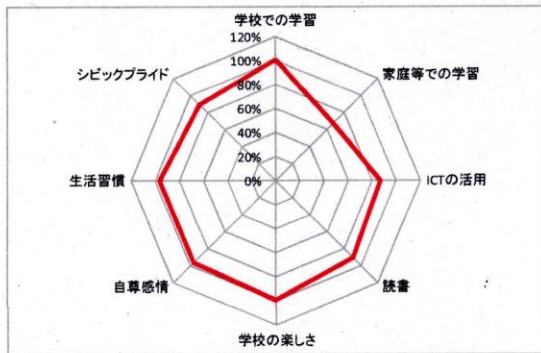
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	領域に関係なく、全体的に全国平均をやや下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題 送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	どの領域にも正答率が全国平均より高い問題と低い問題がある。領域で比較すると、「変化と関係」の領域がよくできている。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方や答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」の問いに対して、約93%の児童が肯定的に回答している。

・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」の問いに対して、約99%の児童が肯定的に回答している。音楽科や総合的な学習の時間などで課題解決に向けてICT機器を活用してきた成果である。一方で「学校の授業以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の問いに対して肯定的に回答している児童は9.5%で全国平均と比べて低い。また「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いに対して肯定的な回答をしている児童が62.1%で全国平均と比べて低い結果となっている。DXリーディングスクールとして、各々の課題解決のために家庭でもタブレットを活用できるようにすることが改善につながると考える。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

児童が「わかる」「できる」と感じる授業を積み重ねることで、また、校内研究の柱である「ICTの活用」をより充実させることで、基礎・基本の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりやホームページに本校の課題を記載し、家庭への周知を行う。また、タブレットを用いた家庭学習を含め、自主学習の仕方を具体的に伝えることで、自主的・計画的に学習に取り組むことができるようにする。